

インクルーシブ事業連合 設立経過

私たち生活クラブ運動グループは、生協設立から40年余りが経過する中、自分たちの生活の豊かさとは何か、市民主体の社会のあり方を考えたいと様々な地域活動を続けてきました。

1992年、アビリティクラブたすけあいを生み出すと同時に、各地域にたすけあいワーカーズを形成し、翌年には生活クラブ組合員の寄付によって社会福祉法人悠遊を設立。そして、本格的に地域福祉事業に取り組む主体として、福祉事業・活動の連携を図るために「生活クラブ運動グループ地域福祉推進会議」を発足しました。2000年には「生活クラブ運動グループ福祉協議会」へと移行、運動グループの活動を共有することで事業の継続と発展を追求し、実体を作るとともに、生活者ネットワークとも連携し、政策提案の活動もすすめてきました。

経済効率優先社会の中、人のつながりは分断され、物質的な豊かさは裏腹に孤立や格差が若者から高齢者にまで広がっています。私たちはどんな状況にあっても排除されることのない、いろいろな人がいて当たり前の社会をインクルーシブな地域社会とよびます。こうした社会の実現に向け、運動グループの力を束ねて地域の中に必要なしくみをつくり、市民が参加し利用する「まちづくり型福祉」をさらに推進するための中間支援機能として、インクルーシブ事業連合を構想しました。

そして、2012年3月、福祉協議会の機能を移行し、生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合を設立しました。

インクルーシブ事業連合 中間支援機能

1 生活クラブ運動グループのこれまでの実績やノウハウ、強みを活かしながら、地域が主体的にまちづくりに取り組むことを支援していきます。

- 「市民版地域福祉計画」*の策定を地域協議会に呼びかけ、必要なしくみづくりに自ら問題意識を持って取り組む主体を広げるための、地域活動の支援。
- 「市民版地域福祉計画」の実行性を高めるために、インクルーシブ事業連合からも積極的に地域に働きかけ、福祉計画の実現を図る。
- 講座、研修、フォーラム等の組み立て、開催や人材育成。

★市民版地域福祉計画とは
まちの概要・現状から、課題、解決に向け、こうなったらいいのに、と思うことを実現するために基本的な考え方や行動計画をまとめたもの。

2 住まいのプラットフォーム

- 住まいのセミナー ●講師派遣
- 遊休資産の社会的活用コーディネイト など

3 調査研究

- 制度検証やニーズ調査、新たな取り組みに向けた研究など。

4 制度・政策提案

- 予算要望 ●ロビー活動など

5 情報発信

- 通信発行、HPの作成

インクルーシブ事業連合 助成事業の目的

1 インクルーシブ地域社会の実現に向けて、運動グループをはじめ多様な市民力を発揮させた『市民主体のまちづくり型福祉』を推進し、豊かな地域社会づくりにつなげる。

2 助成をきっかけに助成団体と生活クラブ運動グループや寄付者が地域でつながり、立場を超えた交流や連携を後押しする。

3 寄付という意味あるお金の有効活用を図ることにより、市民が主体となって地域に必要なしくみを生み出すことを支援する。

4 事業を地域に根付かせ、社会の機能として継続していくことを支援する。

★地域協議会とは
生活クラブ運動グループの各団体が地域ごとに連携を図り、市民による、暮らしやすいまちづくりをすすめるための協議の場です。

インクルーシブ事業連合お問合せ先

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-13-13 3F
「生活クラブ生協・東京」内

生活クラブ運動グループ・ インクルーシブ事業連合

電話:03-5426-5207 FAX:03-5426-5203

E-mail : info@inclusive-gr.com

HP : http://inclusive-gr.com/